造り酒屋で初めて出会う、ときめきのカンタービレ クロマチックハーモニカ 南 里沙

平成26年5月10日(土)
白鷹禄水苑 宮水ホール
14:30 開場 15:00 開演

風薫る5月の午後、禄水苑では、宝塚出身のクロマチックハーモニカ奏者、南里沙さんをお招きし、皆様に清々しい初夏のひと時を、心地よい音色に包まれてお過ごしいただきました。
クロマチックハーモニカは、スライドレバーを使ってピアノのように半音階が出すことができ、4オクターブもの音域が出るドイツ発祥の楽器です。その歌うようになめらかな音色は、楽曲や演奏法によって様々な楽器を連想させ、その豊かな表現力にも目を見張るものがあります。こうしたクロマチックハーモニカの魅力を是非間近で感じていただきたいと思い、この度、日本でも数少ないプロ奏者の南理沙さんをお招きしました。
フューシャ色のドレスで、花のように可憐に登場した南里沙さんと、ギター伴奏の渡辺具義さん。
まず前半は、バッハの「アダージョ」から、グレンミラーの「ムーンライトセレナーデ」、五輪真弓の「恋人よ」まで、そのレパートリーの幅広さと表現力の豊かさに圧倒されます。前半最後の曲は美空ひばりの「悲しい酒」。これは蔵元でのコンサートということで、特別の選曲していただいた、里沙さんのお心遣い。このタイミングにお酒のPRタイムも設けていただき、感謝しています。
後半一曲目は翌日が母の日であることから選ばれた「母さんの歌」。しみじみとした音色に心が癒される思いがしました。次はガラリと雰囲気が変わり、ピアソラの「カフェ1930」。
この曲といい、後に演奏された「スペイン」といい、超絶技巧に加え、可憐な姿からは想像できないようなエネルギッシュなパフォーマンスに会場の盛り上がりも頂点に達しました。最後は森山直太郎の「さくら」、そしてアンコールの「見上げてごらん夜の星を」でしっとりとコンサートは幕を閉じました。
クロマチックハーモニカの音色は彼女の手にかかると、さらに多彩な表情と豊かな彩りを帯び、表現力は無限に広がります。ジャズ、ポップス、クラシックの名曲を、確かな技巧と豊かな感性で奏でる彼女の演奏を通して、クロマチックハーモニカによるドラマチックな音の世界を堪能させていただきました。

演奏曲目
「アイル・ビ・ヒアー」
バッハ　「アダージョ」
グレンミラー　「ムーンライトセレナーデ」
五輪真弓「恋人よ」
モーツアルト　「夜の女王のアリア」
「悲しい酒」

「母さんの歌」
ピアソラ　「カフェ1930」
ヘンリー・マンシーニ　「ひまわり」
チック・コリア　　「スペイン」
「ミントティー」（オリジナル曲）
森山直太郎「さくら」

アンコール　　「見上げてごらん夜の星を」